

海域	経過 (12～1月)	現況(6月上旬～ 2月中旬)	見通し (3月～4月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水総研発表)	<p>・定地水温:12月は平年並み、1月は平年並み～やや高めで推移した。</p> <p>・12月の海洋観測の結果、津軽暖流域の0m、50m、100m各層の最高水温はいずれも平年並みであった。また、津軽暖流の水塊深度、および東方への張り出しについても平年並みであった。</p>	<p>・定地水温:平年並みで推移している。</p> <p>・2月の日本海海洋観測の結果、対馬暖流域の最高水温は0m、50m、100mの各層ともやや高めであった。</p>	<p>・津軽暖流域の水温は平年並み～低めで推移する。</p>	<p>・直近の太平洋沿岸定地水温、日本海海洋観測結果とも平年並み基調で推移しており、太平洋および我が国周辺の漁海況予測システムFRA-ROMSⅡでは、沿岸域は低め基調の予測となっている。</p> <p>・気象庁の季節予報によると、3～4月の気温は平年並み～高めと予報されている。</p>	
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	<p><b>【12月】</b>(11/27～12/1) 《表面水温》 10海里以内は13～18℃台であり、黒埼定線で「平年並」～「やや高い」、トドヶ埼、尾埼定線で「やや高い」～「極めて高い」、椿島定線で「やや高い」となった。</p> <p>20～50海里は、10～21℃台であり、黒埼定線で「やや低い」～「平年並」、トドヶ埼定線で「平年並」～「極めて高い」、尾埼定線で「極めて高い」、椿島定線で「高い」～「極めて高い」となった。</p> <p>《100m深水温》 10海里以内は13～15℃台であり、黒埼定線で「平年並」～「やや高い」、トドヶ埼定線で「やや高い」～「高い」、尾埼、椿島定線で「やや高い」となった。</p> <p>20～50海里は4～21℃台であり、黒埼定線で「低い」～「やや低い」、トドヶ埼定線で「平年並」～「極めて高い」、尾埼定線で「高い」～「極めて高い」、椿島定線で「平年並」～「極めて高い」となった。</p> <p><b>【1月】</b> 調査船定期点検のため実施せず。</p>	<p><b>【2月】</b>(2/5～2/8) 《表面水温》 10海里以内は8～16℃台であり、黒埼定線で「やや高い」、トドヶ埼定線で「やや高い」～「高い」、尾埼及び椿島定線で「極めて高い」となった。</p> <p>20～50海里は8～18℃台であり、黒埼定線で「やや高い」～「高い」、トドヶ埼及び尾埼並びに椿島定線で「極めて高い」となった。</p> <p>《100m深水温》 10海里以内は7～14℃台であり、黒埼定線で「平年並」～「やや高い」、トドヶ埼定線で「やや高い」～「高い」、尾埼定線で「やや高い」、椿島定線で「極めて高い」となった。</p> <p>20～50海里は7～18℃台であり、黒埼定線で「やや高い」、トドヶ埼及び尾埼定線で「やや高い」～「極めて高い」、椿島定線で「極めて高い」となった。</p>	<p><b>【3月】</b> 100m深水温は黒埼定線で「平年並み」、トドヶ埼～椿島定線で「やや高い～高い」、各0海里定点の10m深水温は黒埼、トドヶ埼、尾埼で「やや高い」、椿島で「高い」と予測された。</p>	<p>農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」において開発した、水温経験的予測システムを用いて解析した。</p>	<p>2月の椿島定線の20～30海里表面水温は、平年より10℃以上高くなっていた。</p>
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	<p>沿岸定線12-1月はCTDの故障および定期検査・ドック等により観測を休止。</p> <p>浅海定線12月では、仙台湾表面水温が11～15℃、平年偏差で-2.0～0.4℃。海底直上水温は、14～16℃、平年偏差で2.0～3.9℃高め。</p> <p>1月では、表面水温が9～14℃、平年偏差で0.3～4.4℃。海底直上水温は、10～13℃、平年偏差で0.5～3.2℃高め。</p> <p>海況変動を表す指標として、江島定置水温1月の旬平均水温では、平年値に対し4.6～5.6℃高い。</p>	<p>黒潮統流の北偏傾向の継続により、本県沿岸水温は高めで推移し、統流域周辺では、平年値に対し極めて高い地点もみられる。</p>	<p>黒潮統流の北偏化に伴う暖水の影響により沿岸域から沖合にかけて高い見込み。</p>	<p>気象庁各種データ資料親潮域100m深水温参考。</p> <p>FRA-ROMS親潮域100m深水温予報参考。</p>	
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水セ発表)	<p><b>【12月】</b> 《100m深水温》 北部海域は「やや高い」 中部海域は「やや高い」 南部海域は「やや高い」 黒潮統流は富岡定線の距岸70海里、鵜ノ尾埼定線の距岸60海里に確認された。</p> <p><b>【1月】</b> 北部海域は「高い」 中部海域は「極めて高い」 南部海域は「高い」</p> <p>※ 北部:37° 50'N 中部:37° 25'N 南部:37° 00'N</p> <p>※2 1月の海洋観測は距岸30海里以内の定点のみ(通常70海里)。</p>	<p><b>【2月】</b> 《100m深水温》 北部海域は「極めて高い」 中部海域は「極めて高い」 南部海域は「極めて高い」</p> <p>※2月の海洋観測は距岸30海里以内の定点のみ(通常70海里)。</p>	<p><b>【3月】</b> 「高い」～「極めて高い」 <b>【4月】</b> 「やや高い」～「高い」</p>	<p>FRA-ROMSⅡの予測によると、3月の福島県海域142°00'E以西における100m深水温は、平年差+3℃～+5℃の領域が大半を占めており、「高い」～「極めて高い」に相当している。</p> <p>FRA-ROMSⅡの4月の100m深水温予測において、黒潮系暖水が波及していることから、水温の高い状態が継続すると考えられる。</p> <p>気象庁の「海面水温・海流1か月予報」(令和6年2月9日発表、対象期間2月10日～3月10日)によると、本州東方の海面水温は「平年よりかなり高い」とされている。</p>	<p><b>【海況】</b> 令和5年1月～令和6年2月の間で11・12月を除き、100m深で平年差+3℃以上となり、水温の高め基調が継続している。 (平年値:1991年1月～2022年12月における100m深の水温平均値)</p> <p><b>【漁況】</b> 例年見られなかった、カイワリ、アカアマダイなどの暖水性魚種が</p>

					漁獲されている。一方で、マダラやミズダコなどの冷水性魚種の漁獲が減少している。
常磐南部～鹿島灘 (茨城県沿岸；茨城水試発表)	<p>【12月】 11月と比較すると黒潮はやや離岸したものの、依然として黒潮からの暖水の影響がみられ、全層で概ね「平年並～やや高め」となった。</p> <p>【1月】 黒潮からの暖水の影響が継続し、0～100m深で概ね「やや高め～高め」、200m深で「平年並～高め」となった。</p>	調査船の定期修繕により、2月の海洋観測は実施できなかった。気象庁「海洋の健康診断表」によると、黒潮の立ち上がりは継続しており、0m深は14～19℃台、100m深は黒潮流路で18～19℃台、他で13～15℃台となり、全層で概ね「平年並～高め」(黒潮流路で「高め～極めて高め」となった。	黒潮からの暖水の影響が継続し、全層で概ね「平年並～高め」となる見込み。	FRA-ROMS IIによる。	サバ南下群の来遊状況は極めて低調で、北部まき網の12月の水揚量は前年比56%、1月は3%に留まっている。

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+3.3℃～	+3.8℃～	+6.1℃～	+5.8℃～	+4.9℃～	+6.1℃～
高い(7.5%)	+2.2～+3.2℃	+2.4～+3.7℃	+3.9～+6.0℃	+3.8～+5.7℃	+3.2～+4.8℃	+4.0～+6.0℃
やや高い(20%)	+0.9～+2.1℃	+1.0～+2.3℃	+1.6～+3.8℃	+1.5～+3.7℃	+1.3～+3.1℃	+1.6～+3.9℃
平年並(40%)	+0.8～-0.8℃	+0.9～-0.9℃	+1.5～-1.5℃	+1.4～-1.4℃	+1.2～-1.2℃	+1.5～-1.5℃
やや低い(20%)	-0.9～-2.1℃	-1.0～-2.3℃	-1.6～-3.8℃	-1.5～-3.7℃	-1.3～-3.1℃	-1.6～-3.9℃
低い(7.5%)	-2.2～-3.2℃	-2.4～-3.7℃	-3.9～-6.0℃	-3.8～-5.7℃	-3.2～-4.8℃	-4.0～-6.0℃
極めて低い(2.5%)	-3.3℃～	-3.8℃～	-6.1℃～	-5.8℃～	-4.9℃～	-6.1℃～

1991年1月～2020年12月の100m深度の観測水温を基に階級区分している